

令和6年9月24日

第6学年保護者様

横浜市立初音が丘小学校  
校長 坂本 陽子

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果報告について

4月18、19日に実施いたしました令和6年度全国学力・学習状況調査(小学校)における本校6年生の調査結果の分析と考察をご報告いたします。今回の調査の結果を学校でも活用し、一人一人の子どもの力を伸ばしていける指導をしていきたいと思っております。

なお、今回の調査によって見られた結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分に理解していただけるようお願いいたします。

### 全体的な傾向の分析

特筆すべきは、「朝食を毎日食べていますか」、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生から教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が多いことである。このことから、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことが分かる。また、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という設問では、「ほぼ毎日」、「週3回以上」という回答を合わせて86%を超え、県や全国の平均を大きく上回り、授業でのICT機器の使用頻度が高い。それに加えて、学校以外の勉強でPC・タブレットなどのICT機器を使用する頻度も高く、家の人との約束をしっかり守っていることも分かった。

反対に、「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標をもっていますか」という設問から、自己肯定感があまり高くないことや夢や目標をもていない児童が一定数いることが分かった。長引いたコロナ禍が児童の心理面に与える影響が未だにあることがうかがえる。

### 教科結果の考察

#### 【国語】

本校の平均正解率は全国平均、神奈川県平均を下回ったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題以外は、全国、県平均並みであった。国語科は基礎的な学力が課題である。

#### 【算数】

学習指導要領に記載されている算数科の5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と活用」「データの活用」のうち、「数と計算」、「データ活用」の領域で全国平均、神奈川県平均を下回った。基礎的な学力に加え、情報を処理し活用していく資質・能力がより求められていることが分かった。